

学会賞の選考結果について

証券経済学会選考委員会

1 応募状況

応募点数 2 点（著書 1 点、論文 1 点）

2 選考結果

証券経済学会賞（図書部門） 該当なし

証券経済学会・最優秀論文賞 該当なし

証券経済学会・優秀論文賞

川本真哉「MBO はパフォーマンスを改善させたのか：株式非公開化に関する実証分析」
『証券経済学会年報』第 55 号 2020 年 11 月

3 講評

選考に当たっては、以下の基準で審査を行った。

- ・学術書としての要件を満たしているか
- ・研究内容にオリジナリティがあるか
- ・問題意識、分析枠組みが明確で、著書としての完成度が高いか
- ・先行研究を十分に消化しているか
- ・証券経済学会のテーマとして相応しいか

応募業績のうち、著書については、「学術的な問いを提示した上で議論が展開されているものとは認めがたい」、「研究書というよりも、一般の読者を対象とした体裁を取っており、学会賞を授与するために必要な体裁や内容を伴っていない」という理由から、受賞候補からは外された。

川本氏の著作は、近年、一定の存在感を持つようになった MBO の企業パフォーマンスに関して、先行研究に基づいた仮説を提示した上で、差の差 (difference-in-difference) 分析を行い、傾向スコアマッチングを用いて内生性にも配慮した上で、丁寧な実証分析を行ったものである。

特に、非公開化されるため情報が制限される中で、財務情報を収集している点や、研究の蓄積を続けていく段階にある我が国の MBO 研究において、数少ない実証研究であることから、高く評価をするべきであるとの声が多かった。さらに、MBO 実施後のパフォーマンス推移について明らかにするとともに、それに伴う当該企業のコーポレートガバナンス構造の変化に関して分析を行っている点も、高く評価された。

ただし、本論文が包括的な決定版であるとはまでは言えないという声もあった。この意味から、本論文は、最優秀論文賞には今一步であるものの、「証券経済学会・優秀論文賞」を授与するにふさわしいものと判断される。